

学校 教育 目標	「知恵だせ 汗だせ 明るい子」 ○自分の課題をもち、その解決に向けて取り組もうとする子を育てます。(知) ○自分や友達のよさを認め合うことができる子を育てます。(徳) ○自他の生命を大切にしようとする子を育てます。(体) ○地域の人やものを大切に、共に生きようとする子を育てます。(公) ○多様性を尊重し、社会とのつながりを大切にしようとする子を育てます。(開)				
	学校 概要	創立 48 周年	学校長 大原 敦子	副校長 猪子 隆弘	2 学期制
児童生徒数： 233 人		主な関係校： 鴨居中学校・緑小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	鴨居中 ブロック 鴨居中学校 緑小学校 竹山小学校	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
		○自ら進んで学ぶ児童生徒 ○「問題発見・問題解決の能力を育てる指導方法の工夫」をブロック合同授業研究のテーマとし、各教科・療育においてテーマを意識した授業改善に取り組む。(授業研究会は6月・9月 取組は通年)○児童生徒理解をさらに深めるために、随時情報交換を行う。(情報交換会は8月設定)○小中合同の学校保健委員会を開催し、小中が連携して同じテーマに取り組み話し合うことで、自分たちの健康についての意識を高める。
〈問題発見・解決能力〉 〈自分づくりに関する能力〉 〈言語能力〉		

中期 取組 目標	○子ども一人ひとりを大切に、異学年や竹山の「まち」や「人」とかかわりながら、思いやり協力し高め合える学校にします。 ・個性や特性を受けとめ互いに認め合える集団づくりを目指し、どの子にも居場所のある温かい学校づくりをすすめます。 ・様々な活動の中で「めあて」と「振り返り」をしっかりと行い、自ら「分かった」「できた」と気付き、次への意欲につながれるように活動をすすめます。 ・竹山の「まち」や「人」との活動を通してつながりを意識し、竹山の「まち」を愛する心を育てます。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①月1回のたてわり遊びの活動やたてわり全校遠足、ウィンターコンサートや幼稚園保育園中学校との交流を行い、異学年との交流から自己有用感を育てる。②まちの自然や人とふれ合う活動に各学年で取り組み、6年間を通して継続的な活動を行うことで、「竹山が好き」という心を育てる。
担当 人権・サポート部	
生きてはたらく知	①分かりやすい「めあて」と「振り返り」を意識した授業を行う。また、ノートや学習用具を一括で揃えているメリットを生かし、基礎基本の定着に今より近づけるようにする。②重点研究で取り組む国語の力や様々な人とのかかわりから得たものを、学習発表会の活動でつながられるようにすすめる。
担当 推進委員会他	
特別支援教育	①一般級の中にいる困り感をもっている児童に気付き、どの子も今よりも安心して学校生活を過ごすことができるように研修や情報提供外部機関との連携を行い教職員の特別支援教育に関する資質を高める。②特別支援委員会を活用し、個別支援級と一般級の情報や指導方針の共有を図る。
担当 特別支援委員会	
児童指導	①年間を通してあいさつに取り組んだり、たけっこルールやスタンダードに沿って全職員で同じスタンスで児童指導に当たる。②職員会議での児童理解の時間を大切に指導に生かす。6年間継続して記録し引き継ぐ各学年の児童指導ノートを活用し、専任・担任・管理職などがチームで指導に当たる。
担当 専任・サポート部	
健やかな体	①年間通して力を入れている歯磨き指導や「スイッチオフデー」を継続し、今年度は食育にも関心をもたせて「自分の体は自分で守る」姿勢を継続して育てる。②鴨居中ブロックで同じテーマで行う年2回の「合同学校保健委員会」を通して、朝食の欠食児童が今よりも少しでも減少するように働きかける。
担当 保健・サポート部	
地域連携	①竹山の地域の方々の思いや協力体制を、次年度からの学校のカリキュラムとうまく調整して連携を図る。公園清掃や竹山池の活動など今までも様々な活動を行っているので、その意味付けや6年間の系統性を整理する。②まち懇なども活用し創立50周年に向けて少しずつ連携を進める。
担当 プランニング・リサーチ部他	
いじめへの対応	①月1回のいじめ防止対策委員会で丁寧に経過確認するが、日々の小さいと思われる案件も専任に報告共有し一人で抱え込まない体制を確認しチーム対応を行う。学年児童指導継続ノートにも記入報告。②たけまるアンケートを含む年3回の児童アンケートから、見えにくい状況も逃さず対応する。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①月1回のメンター研のみならず、「先輩の授業を見て学びたい」という今年度の取組が実現できるよう人材育成マネジメント対象職員と連携して活動を進める。②週1回の主幹会で主幹の目から見た学校状況や改善点を聞き運営に生かす。③「働き方見直しプロジェクト(仮)」に前向きに取り組めるような名称やマークを職員から募集する。まずは終了時刻をはっきりとさせて様々な会議を行う。
担当 主幹・働き方見直しプロジェクト	